

表紙 (提案書 様式 1 - 1)

平成 2 1 年度 地方の元気再生事業 提案書

平成 2 1 年 3 月 3 1 日

内閣官房地域活性化統合事務局
北陸圏・中部圏地方連絡室長 殿
内閣府地域活性化推進担当室長 殿

霧ヶ峰自然環境保全協議会 座長 土田 勝義

諏 訪 市 長 山田 勝文

地方の元気再生事業について、以下のとおり提案いたします。

【提案名】

霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト(長野県霧ヶ峰地域)

【問い合わせ先】

組織・役職名：霧ヶ峰自然環境保全協議会 事務局
(長野県諏訪地方事務所環境課 環境課長)

氏 名：熊谷 和史

住所 〒392-8601

長野県諏訪市上川 1 丁目 1,644 の 10

TEL : 0266-57-2952 FAX : 0266-57-2904

E-mail : suwachi-kankyo@pref.nagano.jp

平成21年度 地方の元気再生事業 提案書 (様式1-1)

(1) 提案名	霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト(長野県霧ヶ峰地域)
(2) 提案団体名	霧ヶ峰自然環境保全協議会
(3) 推薦団体名	
(4) 対象地域	長野県 諏訪市・茅野市・下諏訪町(霧ヶ峰地域)
(5) 目指すべき地方再生の全体構想	<p>(プロジェクトのねらい、全体構想) 本プロジェクトは、自然再生と地域経済(観光)再生を一体で行うことによる地域再生への取組である。</p> <p>【プロジェクトの3つの柱】 「草原」「湿原」「樹叢」保全再生プロジェクト ～多様な主体の参画により生物多様性を保全再生し、100年後の人たちに手渡す取組～ “彩り草原空間”形成プロジェクト ～霧ヶ峰を日本で最も保護と利用の調和の取れた場所とするためのシステム及びハード整備～ 霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築プロジェクト ～霧ヶ峰ならではのエコツーリズムモデルの構築 //霧ヶ峰の自然・文化と交歓することにより“彩り草原空間”を満喫し、生物多様性の意味や人と自然の関わりを実感・体験・参加するツアー～</p> <p>(多様な主体の参画) 「地方の元気再生事業」の成果を基に地域住民・団体、地権者、大学、行政機関等で構成される霧ヶ峰自然環境保全協議会がプロジェクトの本格展開の具体案を検討し、事業推進の事務局となる公園管理団体の設立も視野に入れながら、多様な主体の参画を得て実施に移していく。</p>
(6) 提案の背景	<p>地域の課題</p> <p>霧ヶ峰は、「草原」の中に天然記念物の「湿原」と原生的な樹林である「樹叢」が点在し、統一的な景観を有する約 3,000ha の高原である。高原全体に広がる草原は、“採草”という人間活動により維持されてきた半自然草原。また、先土器時代からの遺跡や諏訪信仰に関わる遺跡など貴重な歴史・文化遺産も存在する。そして、長野県内有数の観光地でもある。</p> <p>霧ヶ峰は今、次の二つの問題に直面している。(詳細は、平成 20 年度事業提案書のとおり)</p> <p>貴重な地域資源としての自然の変容 経済構造の変化等により、霧ヶ峰では昭和 30 年代の半ばを境に採草と草原の十分な管理が行われなくなった。その結果、霧ヶ峰の自然は変容しており、今後変化が加速していくと予想される。また、夏期、特定の場所に利用客が集中することによる自然への負荷も大きい。 草原の森林化(霧ヶ峰の2地点における予測では、50年から70年後には自然林化する。) 湿原の乾燥化(3つの湿原いずれも乾燥化が進行) 生物種減少のおそれ(草原の森林化、湿原の乾燥化、野生動物被害、外来種の侵入等に伴うもの) など</p> <p>観光地としての不振 観光客数の減少(ピーナスライン(有料道路)が無料開放された平成 14 年にピークを記録して以降、一貫して減少傾向) 夏期への観光客集中(過剰利用による自然への負荷、渋滞、トイレの不足等の問題の発生) 宿泊客割合の低さ(滞在客・滞在日数の少なさ、通過観光地化)</p> <p>これまでの関連の取組 平成 20 年度は、地方の元気再生事業の支援を受け取組を行った。それにより民間・行政を包括する協議会による『霧ヶ峰の今とみらい～霧ヶ峰再生のための基本計画～』(以下『霧ヶ峰の今とみらい』)の合意形成、エコツアー人材の発掘、保全再生活動の拡大等の成果が得られたところである。</p> <p>平成 20 年度の具体の成果例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 霧ヶ峰の二次草原のバイオマス量の把握 ・ 霧ヶ峰に適した公衆トイレの仕様・費用の把握 ・ インタープリター(エコツアーの担い手)の発掘 ・ 人と車の動き及び霧ヶ峰内の各地点間の連携可能性の把握

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家招聘による効果的検討 ・ 『霧ヶ峰の今とみらい』の合意形成 <p>また、次のような個別団体の取組もあり、これらは連携を図りながら継続・拡大していく。</p>					
	内 容	実施主体				
	霧ヶ峰草原再生火入れ事業	諏訪市実行委員会、地権者				
	雑木処理	諏訪市実行委員会、地権者、市民団体				
	植物保護指導	諏訪市、下諏訪町				
	自然歩道清掃	茅野市				
	外来種駆除	諏訪市、八島湿原を美しくする会等				
	在来植生復元	地権者				
	エコツアー	NPO法人、ガイド組合等				
(7)取組の目標	目標1	平成20年度の事業成果を発展させ、実用化及び資源循環モデル構築に必要なデータを取得、整理				
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">H20(現状)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">H21</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 草と雑木が混じった草原のバイオマスのバイオエタノール化は未知 ・ 地方の元気再生事業の実施スケジュールの制約から、夏期最大ピーク時のトイレ利用負荷のデータは未収集 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未知の分野である、雑木・草のバイオエタノール化について実用化の検討に必要なデータを取得した上、霧ヶ峰において実現可能な資源循環モデルの体系を明らかにする。 ・ 平成20年度に合意した『霧ヶ峰の今とみらい』において喫緊の課題と位置付けられた車山肩のトイレ整備に必要な、環境配慮型トイレの霧ヶ峰への適応可能性に関するデータを取得し、整備計画を明らかにする。 </td> </tr> </table>	H20(現状)	H21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 草と雑木が混じった草原のバイオマスのバイオエタノール化は未知 ・ 地方の元気再生事業の実施スケジュールの制約から、夏期最大ピーク時のトイレ利用負荷のデータは未収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未知の分野である、雑木・草のバイオエタノール化について実用化の検討に必要なデータを取得した上、霧ヶ峰において実現可能な資源循環モデルの体系を明らかにする。 ・ 平成20年度に合意した『霧ヶ峰の今とみらい』において喫緊の課題と位置付けられた車山肩のトイレ整備に必要な、環境配慮型トイレの霧ヶ峰への適応可能性に関するデータを取得し、整備計画を明らかにする。
	H20(現状)	H21				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 草と雑木が混じった草原のバイオマスのバイオエタノール化は未知 ・ 地方の元気再生事業の実施スケジュールの制約から、夏期最大ピーク時のトイレ利用負荷のデータは未収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未知の分野である、雑木・草のバイオエタノール化について実用化の検討に必要なデータを取得した上、霧ヶ峰において実現可能な資源循環モデルの体系を明らかにする。 ・ 平成20年度に合意した『霧ヶ峰の今とみらい』において喫緊の課題と位置付けられた車山肩のトイレ整備に必要な、環境配慮型トイレの霧ヶ峰への適応可能性に関するデータを取得し、整備計画を明らかにする。 				
	目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツアー担い手育成及びエコツーリズムへの理解促進 ・ 利用分散の効果的推進のためのデータ取得、整理 				
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">H20(現状)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">H21</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年度事業では、インタープリター(エコツアーの担い手)の卵を発掘するところまで実施(既存インタープリター22人) ・ 自ら地図を片手に霧ヶ峰を歩く人の行動特性の詳細データがない。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 即戦力のインタープリター養成 20人(インタープリター総数 42人 90%増) ・ 一般の人を対象にしたエコツーリズム講座への参加者数 300人 ・ 自ら地図を片手に霧ヶ峰を歩く人の行動特性の詳細データを取得した上、利用分散・平準化対策を体系的に整理する。 </td> </tr> </table>	H20(現状)	H21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年度事業では、インタープリター(エコツアーの担い手)の卵を発掘するところまで実施(既存インタープリター22人) ・ 自ら地図を片手に霧ヶ峰を歩く人の行動特性の詳細データがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 即戦力のインタープリター養成 20人(インタープリター総数 42人 90%増) ・ 一般の人を対象にしたエコツーリズム講座への参加者数 300人 ・ 自ら地図を片手に霧ヶ峰を歩く人の行動特性の詳細データを取得した上、利用分散・平準化対策を体系的に整理する。
	H20(現状)	H21				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年度事業では、インタープリター(エコツアーの担い手)の卵を発掘するところまで実施(既存インタープリター22人) ・ 自ら地図を片手に霧ヶ峰を歩く人の行動特性の詳細データがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 即戦力のインタープリター養成 20人(インタープリター総数 42人 90%増) ・ 一般の人を対象にしたエコツーリズム講座への参加者数 300人 ・ 自ら地図を片手に霧ヶ峰を歩く人の行動特性の詳細データを取得した上、利用分散・平準化対策を体系的に整理する。 					
目標3	『霧ヶ峰の今とみらい』を発信し霧ヶ峰への理解を促進するための情報媒体の構築及び保全再生活動への参加促進					
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">H20(現状)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">H21</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『霧ヶ峰の今とみらい』の本格発信が未着手 ・ 霧ヶ峰のポータルサイトが未整備 ・ 保全再生活動参加者数 約 1,650人 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポータルサイト等効果的な情報発信媒体の構築と『霧ヶ峰の今とみらい』の本格発信開始 ・ 霧ヶ峰の保全再生への参画促進のため、企業等へのアプローチ開始 ・ 保全再生活動参加者数 約 2,000人(約2割増) </td> </tr> </table>	H20(現状)	H21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『霧ヶ峰の今とみらい』の本格発信が未着手 ・ 霧ヶ峰のポータルサイトが未整備 ・ 保全再生活動参加者数 約 1,650人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポータルサイト等効果的な情報発信媒体の構築と『霧ヶ峰の今とみらい』の本格発信開始 ・ 霧ヶ峰の保全再生への参画促進のため、企業等へのアプローチ開始 ・ 保全再生活動参加者数 約 2,000人(約2割増) 	
H20(現状)	H21					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 『霧ヶ峰の今とみらい』の本格発信が未着手 ・ 霧ヶ峰のポータルサイトが未整備 ・ 保全再生活動参加者数 約 1,650人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポータルサイト等効果的な情報発信媒体の構築と『霧ヶ峰の今とみらい』の本格発信開始 ・ 霧ヶ峰の保全再生への参画促進のため、企業等へのアプローチ開始 ・ 保全再生活動参加者数 約 2,000人(約2割増) 					
	<p>地方の元気再生事業で取組む内容のねらい</p> <p>平成20年度の成果を踏まえ、平成22年度以降の自律的な取組の本格展開へとつなげるため、地域資源循環・経済活性化の霧ヶ峰モデル構築に資する事業を行う。 取組相互の連携効果は、次のとおりである。</p> <p>a 霧ヶ峰の保全再生の効果 取組を通じ、雑木・草の新しい経済価値に着目した草原の保全再生を進めるものであるが、それにあたり、企業、団体、個人に対する新しい経済価値のアピールや理解促進・参画拡大は、取組により図られる。また、参加体験型エコツアーを通じての保全再生活動への参画は、取組のインタープリター(エコツアーの担い手)養成によって受入れ体制が確立していく。</p> <p>b 経済活性化モデルの構築、地域経済(観光)再生の効果 取組により霧ヶ峰における資源循環・経済活性化が促進されるほか、取組を通じたエコツーリズムの推進及び取組を通じた霧ヶ峰への関心の高まり等により霧ヶ峰の集客を促進す</p>					
(8)取組の内容						

るとともに、滞在客割合を増加させ、観光再生を進める。

c 保全再生と観光の両立の効果

取組 の環境配慮型トイレの整備により負荷軽減のための喫緊の課題に対応できるほか、取組 を通じたエコツーリズムの推進及びGPS携帯端末による案内・誘導等が利用客の利用分散・平準化につながる。また、取組 を通じ、霧ヶ峰の自然環境に配慮した利用について観光客の理解促進を図る。

取組 実用化実験

実施主体 諏訪市

該当する目標 目標1:平成 20 年度の事業成果の発展、実用化、資源循環モデル構築に必要なデータの取得、整理

内容

1 雑木・草のバイオマス利用実験 …8月～2月

技術的に未知の分野である草原のバイオマスのエタノール化に関して実用化の可能性について検討するため、霧ヶ峰の草及び雑木からバイオエタノールを精製する実験を行う。

- ・平成 20 年度の調査で把握された霧ヶ峰の二次草原のバイオマス量(約 3,625 トン)から生産可能なバイオエタノールの量及び費用の試算等を、精製実験を通じて行う 8月～2月
- ・精製したバイオエタノールを、諏訪地域のアイスキャンدلイベントで灯して啓発を行う 2月
- ・精製残渣は堆肥化して農家、一般家庭等に配布する 8月～12月

2 霧ヶ峰の環境と利用負荷特性に適応したトイレの実用化調査 …7月～10月

平成 20 年度に実施した調査で霧ヶ峰に適したトイレの処理方式として提案された「洗浄水循環再利用方式」が、実際に霧ヶ峰(車山肩)の環境と利用負荷特性に適合したものであるかどうか確認するとともにトイレ整備計画を明確にするため、

- ・利用の最大ピークである7月下旬からお盆の時期を含む60日程度、仮設トイレを設置してデータを収集する 7月～9月
(平成 20 年度は、地方の元気再生事業のスケジュール上の制約から、8月下旬から9月上旬にかけてのデータ収集となった。)
- ・利用のしやすさと景観に配慮したトイレの設置場所及びデザインを検討する 7月～10月

取組 エコツアー担い手育成の本格化、歩いて味わう霧ヶ峰文化の醸成

実施主体 諏訪市

該当する目標 目標2:エコツアー担い手育成及びエコツーリズムへの理解促進、利用分散の効果的推進のためのデータ取得・整理

内容

1 インタープリター養成講座の開催 …9月

エコツアーの担い手育成を本格化するため、平成 20 年度に実施した「インタープリター発掘型エコツアー」の参加者等を対象に、霧ヶ峰に即したインタープリテーションの知識と技術を身に付けてもらい即戦力とするための講座を開催する。講座は、座学とエコツアーにおける実技を組み合わせたものとする。

2 エコツーリズム講座の開催 …8月～10月(4回)

霧ヶ峰のみんなが“インタープリター”として観光客・利用者を迎え、層の厚いエコツーリズムに取り組むため、霧ヶ峰の事業者、関係者及び一般住民を対象に講座を開催する。講座は、エコツーリズムに関する理解、霧ヶ峰の自然及び歴史・文化の基礎知識、霧ヶ峰の資源を掘り起こすのに必要な視点の3つを参加者に得てもらうためのプログラムで行う。

3 GPS携帯端末による情報提供と利用客案内・誘導、利用分散実験 …7月～2月

霧ヶ峰はリピーター比率が高く、エコツアーやガイドツアーに参加せず、自ら地図を片手に歩いて楽しむ人も多いことから、そうした人たちに対する情報提供と案内・誘導、利用分散促進のため、GPS携帯端末(携帯電話)による実験を行う。端末から霧ヶ峰の自然、歴史等に関する解説情報及び地図情報を提供することにより、次の3つの効果(うち が最重要)が期待される。

霧ヶ峰の自然、歴史等の解説情報の提供による霧ヶ峰の理解の促進、GPSによる現在位置の表示と目的地への案内、利用者が知らなかった霧ヶ峰の魅力スポット・魅力情報を優先的に表示、案内することによる利用客の誘導、分散

- ・地図データ及びシステム作成 7月～8月
- ・GPS携帯端末実験・実験参加者へのアンケート調査 9月
- ・結果等分析、利用分散・平準化対策を体系的に整理 11月～2月

取組 『霧ヶ峰の今とみらい』の全国発信、一般住民・利用客の理解の促進

実施主体 諏訪市

該当する目標 目標3:『霧ヶ峰の今とみらい』を発信し霧ヶ峰への理解を促進するための情報媒体の構築及び保全再生活動の参画促進

内容

1 霧ヶ峰ポータルサイトの構築 …7月～2月

効果的に情報発信をしつつ、地域住民・企業や利用客に広く霧ヶ峰を理解してもらい、多くの人の参画を得ながら霧ヶ峰再生の事業を推進していくため、次のような情報を提供するポータルサイトを構築する。（「霧ヶ峰」と検索したときにトップでヒットする霧ヶ峰の代表ページ）

制作の技術的な部分は専門業者に委託して行うが、画面構成、提供情報等は、霧ヶ峰自然環境保全協議会の構成団体が検討し、決定する。

- * 『霧ヶ峰の今とみらい』の内容の情報発信、理解の促進
- * 霧ヶ峰の自然、歴史・文化、知られざる魅力の紹介、解説
- * 霧ヶ峰のエコツアー情報の提供
- * 歩いて味わう霧ヶ峰のコース紹介、霧ヶ峰保全再生参画企業、活動参加者の募集 等
- ・ サイト構築 7月～8月
- ・ 試験運用 9月～12月
- ・ 本格運用開始、企業等への発信 1月～

2 霧ヶ峰のロゴデザイン …7月～11月

霧ヶ峰ポータルサイト、パンフレット、案内板等に統一的使用するため、霧ヶ峰のロゴとイメージカラーをデザインする。それに当たっては、霧ヶ峰に対する関心を高めるためにも、一般住民からの図案募集や観光客による投票を行う。

- ・ 図案公募(事前着手) 4月～6月
- ・ 印刷会社による図案洗練 7月
- ・ 観光客による人気投票 8月～9月
- ・ 霧ヶ峰自然環境保全協議会での決定 10月
- ・ ロゴシール作成、リーフレット・ホームページ等への反映開始 11月

3 歩いて味わう霧ヶ峰のリーフレット作成・配布、効果検証 …6月～12月

霧ヶ峰を訪れる一般利用客等を対象に、歩いて味わう霧ヶ峰のコース紹介を通じた利用分散や霧ヶ峰の自然、歴史・文化と『霧ヶ峰の今とみらい』への理解、保全再生を促進するため、リーフレットを作成する。リーフレットは、霧ヶ峰の3ビジターセンター及び宿泊施設等において配布する。

併せてアンケート調査票を挟み込み、回収、分析することにより1～3の効果把握する。

- ・ リーフレット構成検討(霧ヶ峰自然環境保全協議会) 6月
- ・ リーフレット印刷、アンケート調査票とともに配布 7月～
- ・ ロゴ、ポータルサイトURL等を反映して増刷 10月
- ・ アンケート集計、分析 12月～1月

4 霧ヶ峰への理解を促進するためのDVDコンテンツ制作 …7月～3月

映像を使ってわかりやすく解説し訴求力を高めることにより、霧ヶ峰を多くの人に理解してもらうとともに、保全再生活動への企業の参画を促進するため、DVDコンテンツを作成する。

DVDコンテンツは、平成20年度に諏訪地域の小中学生が参加して作成された『ヤマナシじいさんから聞いた霧ヶ峰の物語』を軸に、平成21年度に取材する映像と資料映像、ナレーションを組み合わせたものとし、完成したDVDを諏訪地域に配布し、学習や理解促進に役立てるとともに、草原の資源活用等を通じた霧ヶ峰の保全再生活動に参画する企業へのアプローチに活用する。

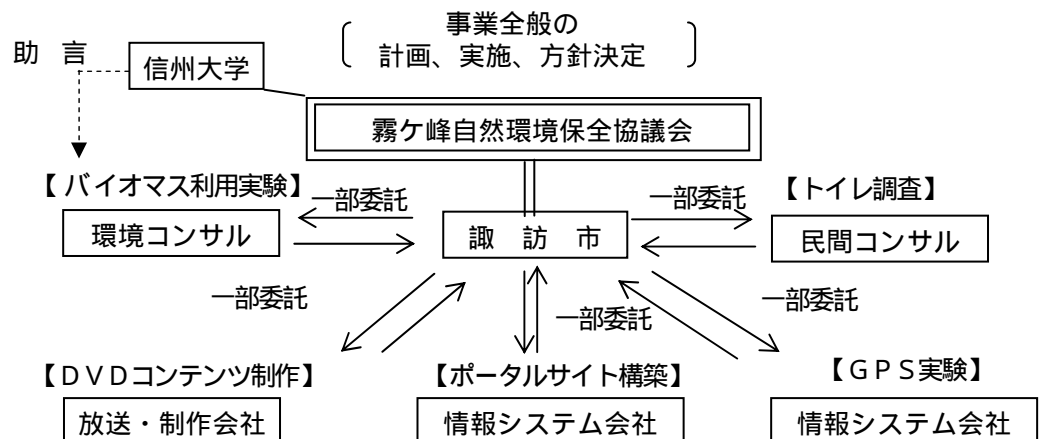
- ・ 取材、DVDコンテンツ制作、DVDプレス 7月～2月
- ・ DVD配布、企業へのアプローチ 2月～3月

(9)関連補助事業等

なし

(10) 実施体制

平成20年度に引続き、霧ヶ峰自然環境保全協議会を通じ、大学、民間、行政が連携して実施する。(役割分担・連携図)

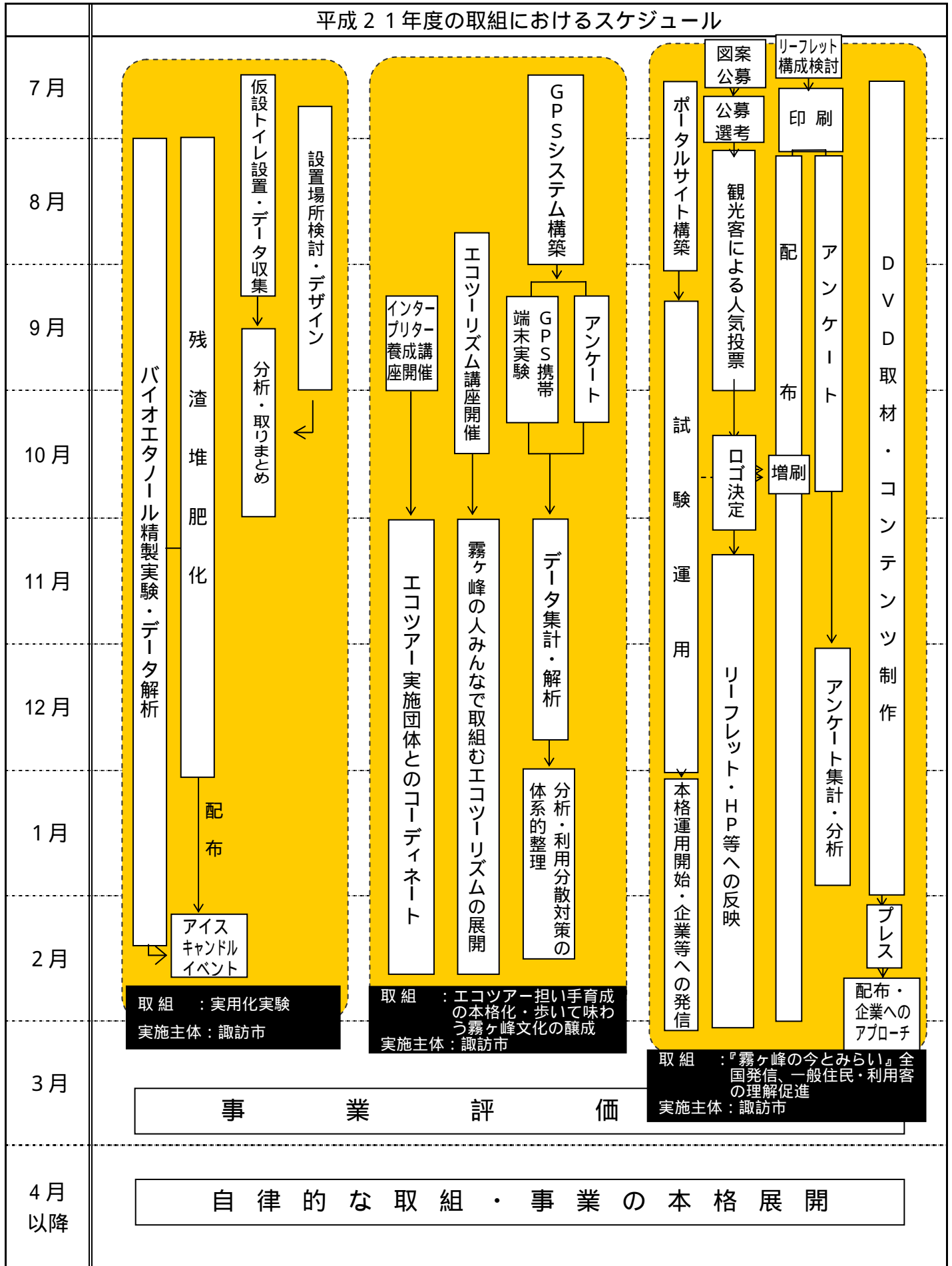


* 環境省との契約主体は諏訪市。環境省との契約後、諏訪市が発注、事業費支払い等を行う。

平成21年度 地方の元気再生事業 提案書(様式1-2)

【平成21年度に実施する取組】

平成21年度の取組におけるスケジュール



平成21年度 地方の元気再生事業 提案書 (様式2)

【平成22年度以降の展開】

<p>(11)取組の内容</p>	<p>平成20年度、21年度の2年間にわたる地方の元気再生事業の取組を基に、地域資源循環と経済活性化による持続的取組を進展させながら、次のような本格展開を行う。</p> <p>「草原」「湿原」「樹叢」保全再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バイオマス活用(草の堆肥化と野菜ブランドづくり、バイオマスエネルギー利用等) ・ 多様な人の参画による保全再生活動の発展的展開 ・ 公園管理団体設立による推進体制の確立 <p>“彩り草原空間”形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境配慮型トイレの整備 ・ シャトルバス運行や木道・案内板整備等による歩く霧ヶ峰の推進、利用分散・平準化 <p>霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタープリター(エコツアーの担い手)の継続的育成 ・ 地域みんなで取り組む層の厚いエコツアーの本格展開 ・ 情報発信の充実 				
<p>(12)平成22年度以降の展開スケジュール</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="194 824 370 1272"> <p>平成22年 4月 ～ 平成23年 3月</p> </td> <td data-bbox="370 824 1461 1272"> <p>自然再生事業の推進 草の堆肥活用、野菜ブランドづくり ポータルサイトによる保全再生活動参画の呼びかけ (企業による、雑木・草の資源活用、草原の里親ボランティア等) 公衆トイレ、木道等の計画的整備 シャトルバス(ラウンドバス)の設計 GPS地図情報の活用 エコツアープログラムの活用 地域みんなで取り組む層の厚いエコツーリズムの本格展開 DVD映像のテレビ放映</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="194 1272 370 1789"> <p>平成23年 ～ (100年後 のために)</p> </td> <td data-bbox="370 1272 1461 1789"> <p>上記に加え シャトルバス(ラウンドバス運行) 公園管理団体設立による推進体制の確立を行い、本格的、継続的に事業展開</p> </td> </tr> </table>	<p>平成22年 4月 ～ 平成23年 3月</p>	<p>自然再生事業の推進 草の堆肥活用、野菜ブランドづくり ポータルサイトによる保全再生活動参画の呼びかけ (企業による、雑木・草の資源活用、草原の里親ボランティア等) 公衆トイレ、木道等の計画的整備 シャトルバス(ラウンドバス)の設計 GPS地図情報の活用 エコツアープログラムの活用 地域みんなで取り組む層の厚いエコツーリズムの本格展開 DVD映像のテレビ放映</p>	<p>平成23年 ～ (100年後 のために)</p>	<p>上記に加え シャトルバス(ラウンドバス運行) 公園管理団体設立による推進体制の確立を行い、本格的、継続的に事業展開</p>
<p>平成22年 4月 ～ 平成23年 3月</p>	<p>自然再生事業の推進 草の堆肥活用、野菜ブランドづくり ポータルサイトによる保全再生活動参画の呼びかけ (企業による、雑木・草の資源活用、草原の里親ボランティア等) 公衆トイレ、木道等の計画的整備 シャトルバス(ラウンドバス)の設計 GPS地図情報の活用 エコツアープログラムの活用 地域みんなで取り組む層の厚いエコツーリズムの本格展開 DVD映像のテレビ放映</p>				
<p>平成23年 ～ (100年後 のために)</p>	<p>上記に加え シャトルバス(ラウンドバス運行) 公園管理団体設立による推進体制の確立を行い、本格的、継続的に事業展開</p>				

平成21年度 地方の元気再生事業 提案書 (様式3)

【 提案者の概要 】

項目		記入欄
提案名		霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト(長野県霧ヶ峰地域)
対象地域	(都道府県名)	長野県
	(市区町村・地区名)	諏訪市、茅野市、下諏訪町(霧ヶ峰地域)
提案団体名		霧ヶ峰自然環境保全協議会
(提案団体)		霧ヶ峰自然環境保全協議会事務局(長野県諏訪地方事務所)
担当者名		熊谷 和史
所属		環境課
連絡先(電話番号)		0266-57-2952
(FAX)		0266-57-2904
(E-Mail)		suwachi-kankyo@pref.nagano.jp
(代表団体名)		諏訪市
担当者名		藤森 昌雄
所属		市民部生活環境課環境保全係
連絡先(電話番号)		0266-52-4141 (内線 214)
(FAX)		0266-57-0660
(E-Mail)		kankyou@city.suwa.nagano.jp
構成団体名 1		上桑原牧野農業協同組合
構成団体名 2		下桑原牧野農業協同組合
構成団体名 3		小和田牧野農業協同組合
構成団体名 4		霧ヶ峰湖東牧野農業協同組合
構成団体名 5		霧ヶ峰高原牧野農業協同組合
構成団体名 6		物見石牧野畜産農業協同組合
構成団体名 7		茅野市米沢北大塩財産区
構成団体名 8		林野庁中部森林管理局南信森林管理署
構成団体名 9		霧ヶ峰強清水自治会
構成団体名 10		池のくるみ旅館組合
構成団体名 11		霧ヶ峰旅館組合
構成団体名 12		霧ヶ峰インターチェンジ商業会
構成団体名 13		諏訪市観光協会
構成団体名 14		車山高原自治会

構成団体名 15	茅野市観光連盟
構成団体名 16	車山高原観光協会
構成団体名 17	八島湿原山小屋組合
構成団体名 18	下諏訪観光協会
構成団体名 19	諏訪市グライダー協会
構成団体名 20	霧ヶ峰バス事業者連絡会
構成団体名 21	社団法人長野県環境保全協会諏訪支部
構成団体名 22	諏訪地域自然保護レンジャー世話人会
構成団体名 23	霧ヶ峰パークボランティア連絡会
構成団体名 24	霧ヶ峰ネットワーク
構成団体名 25	環境会議・諏訪
構成団体名 26	霧ヶ峰ガイド組合
構成団体名 27	車山ガイド組合
構成団体名 28	霧ヶ峰インタープリテーション K i N O A
構成団体名 29	諏訪教育会自然研究部
構成団体名 30	国立大学法人信州大学
構成団体名 31	環境省中部地方環境事務所長野自然環境事務所
構成団体名 32	諏訪市
構成団体名 33	茅野市
構成団体名 34	下諏訪町
構成団体名 35	長野県環境部自然保護課
構成団体名 36	長野県環境保全研究所
構成団体名 37	長野県諏訪警察署
構成団体名 38	長野県諏訪建設事務所
構成団体名 39	長野県諏訪地方事務所
推薦団体名	
担当者名	
連絡先(電話番号)	
(FAX)	
(E - Mail)	

霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト(長野県霧ヶ峰地域)

- 霧ヶ峰自然環境保全協議会 -

平成21年度 地方の元気再生事業
提案書(様式4)



地域の現状と課題(提案の背景)

【背景】 貴重な地域資源としての自然の変容、 観光地としての不振

【平成20年度地方の元気再生事業の取組】

自然再生と地域経済(観光)再生を一体で行うことにより、100年後の人々に霧ヶ峰の自然、歴史・文化遺産を手渡すことを目標に、平成20年度地方の元気再生事業により、「草原」「湿原」「樹叢」保全実験調査、「ピーク対策」実験調査、「オフピーク対策」試行調査の3つの取組を実施した。平成20年度の成果を踏まえ、平成22年度以降の自律的な取組の本格展開へとつなげるため、平成21年度も地方の元気再生事業の支援を受け取組を行う。

目指すべき地方再生の全体

【平成21年度の3つの取組(平成20年度の取組を踏まえて)】
ねらい: 地域資源循環・経済活性化の霧ヶ峰モデル構築

【取組】 バイオエタノールとトイレの実用化実験

【取組内容】 雑木・草のバイオエタノール精製実験 / 霧ヶ峰の環境と利用負荷特性に適応したトイレの実用化実験

【見込まれる効果等】 雑木・草の新しい経済価値に着目した草原の保全再生推進と霧ヶ峰型資源循環モデルの構築、環境負荷軽減

【取組】 エコツアー担い手育成の本格化・歩いて味わう霧ヶ峰文化の醸成

【取組内容】 インタープリター養成講座の開催 / エコツーリズム講座の開催 / GPS携帯端末による情報提供、案内・誘導、利用分散実験

【見込まれる効果等】 20年度に発掘した人材をエコツアーの担い手として本格養成、歩く霧ヶ峰の推進・利用分散・平準化による環境負荷軽減 等

地方の元気再生事業

【取組】 『霧ヶ峰の今とみらい』全国発信、一般住民・利用客の理解促進

【取組内容】 霧ヶ峰ポータルサイトの構築 / ログデザイン / 歩いて味わう霧ヶ峰のリーフレット作成 / DVDコンテンツ制作

【見込まれる効果等】 多くの人の理解促進による保全再生活動への参加者増加、エコツアー参加者の増加 等

実施スケジュール

H21年2月	『霧ヶ峰の今とみらい - 霧ヶ峰再生のための基本計画』合意	
H21年7月	実施取組	実用化実験着手
	実施取組	GPS実験着手
	実施取組	各項目着手
H21年8月	実施取組	エコツーリズム講座(8、9月)
		インタープリター養成講座(9月)
H22年3月	21年度取組の評価、検証、実施報告書作成	
H22年度~	プロジェクトの本格展開	

(平成20年度の成果 : 民間・行政を包括する協議会による合意形成、エコツアー人材発掘、保全再生活動の拡大)

・ バイオマス量の把握
・ 霧ヶ峰に適した公衆トイレの仕様・費用の把握 等

・ インタープリター(エコツアー担い手)発掘
・ 人と車の動き及び霧ヶ峰内の各地点間の連携可能性の把握

・ 専門家招聘による効果的検討
・ 『霧ヶ峰の今とみらい - 霧ヶ峰再生のための基本計画』合意

実施主体間の連携 : 平成20年度に引き続き、霧ヶ峰自然環境保全協議会を通じ、民間、行政が連携して推進

「草原」「湿原」「樹叢」保全再生

バイオマス活用(草の堆肥化と野菜ブランドづくり、バイオマスエネルギー等) / 多様な人の参画による保全再生活動 / 公園管理団体設立による推進体制確立

“彩り草原空間”形成

環境配慮型トイレ整備 / シャトルバス運行や木道・案内板整備等による歩く霧ヶ峰の推進、利用分散・平準化

平成22年度以降の本格展開

霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築

インタープリター(エコツアーの担い手)の継続育成 / 地域みんなで取り組むエコツアーの本格展開 / 情報発信の充実

人・自然・地域経済 = 3つの元気

【霧ヶ峰再生の目標像】

地域資源循環と経済活性化による持続的取組の発展
100年後の人々に霧ヶ峰の自然、歴史・文化遺産が手渡されている
利用分散・平準化による負荷軽減、霧ヶ峰の保全再生と観光の両立